

## 【縄文土器観察表凡例】

### ○文様による分類

主文様		施文方向	口縁部と胴部の境		沈線・側面圧痕の種類	
I	縄文	A 縦位	1	沈線	a	深い、断面「V」・「U」
II	撚糸文	B 交差	2	縄側面圧痕	b	浅い、断面「V」・「u」
III	沈線文	C 斜位	3	なし	c	細く深い、断面「V」
IV	絡条体圧痕文	D 横位			d	細く浅い
V	無文	E その他			e	深い圧痕
					f	浅い圧痕
					g	なし

### ○形体による分類

口唇部形体	口縁部形体	底部形体
I 尖頭形	A 直線的に開く	1 尖底
口唇部が、内外面の双方、もしくはどちらか一方から削ぎ落とされ、先端はナデによって調整され、尖頭形を呈するもの。	直線的に胴部上半の角度で開くもの。	内外面とも尖底、もしくは丸底状を呈するもの。
II 幅の狭い平坦部を有する尖頭形	B 外反	2 小平底
口唇部が、内外面の双方、もしくはどちらか一方から削ぎ落とされ、先端はケズリによって調整され、幅の狭い平坦部を有する尖頭形を呈するもの。	胴部上半の角度から緩いカーブをもって開くもの。	外面は小径の平底、内面は丸底状を呈するもの。
III 角頭形	C 大きく外半(屈曲)	3 平底
口唇部の削ぎ落は行われても僅かで、先端はケズリによって幅広く調整され、角頭形を呈するもの。	口縁部近くから強いカーブをもって開くもの。	内外面とも平底のもの。底面は、胴部と同程度の厚さのものと、胴部に比べて厚いものがある。
IV 円頭形	D 内弯	
口唇部の削ぎ落は行われても僅かで、先端はナデもしくはナデ上げによって調整され、円頭形を呈するもの。	胴部上半の角度から内側に向かってカーブするもの。	

### ○調整による分類

口唇部上面の調整	口唇部内外面の調整	口縁部付近の調整	胴部の調整
I ナデ	A ナデ	1 ヨコナデ	a ナデ
II 工具による平滑化	B 内外面削ぎ	2 横位の削り	b 縦位及び斜位の削り
	C 内削ぎ	3 横位の粗い削り	c 縦位及び斜位の粗い削り
	D 外削ぎ	4 横位の削り後、ミガキ	d 縦位及び斜位の削り後、上半部ミガキ
			e 縦位及び斜位の削り後、ミガキ
			f 横位の削り
			g その他